

| 出題分析 | | | | | |
|--|----------|---|--|--|--|
| 試験時間 60 分 | 配点 150 点 | 大問数 5 題 | | | |
| 分量 (昨年比較) [減少 <input checked="" type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 増加] | | 難易度変化 (昨年比較) [易化 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 難化] | | | |
| 【概評】 | | | | | |
| <p>例年通り大問 5 つで構成され、設問数も昨年と変わらなかった。時代については、昨年と異なり古代史からの出題がなく、昨年まで続いていた近世ヨーロッパに関する大問もなくなった。また、今年も近現代史の内容のみで構成された大問が扱われた。地域については、一昨年にみられた中国やイスラーム世界に関する大問が復活し、特に今年はイスラーム世界に関する出題が多かった。出題形式は、例年通り大半が誤文選択問題であり、昨年に比べて文化史の出題がやや多かった。一部に判断で迷う設問があったものの、明らかに誤文であると判断できる選択肢が多くなったため、全体的な難易度は昨年並みといえる。</p> | | | | | |

| 設問別講評 | | | |
|-------|---------------|---|-----|
| 問題 | 出題分野・テーマ | 設問内容・解答のポイント | 難易度 |
| I | 中世ヨーロッパ史 | イ：やや難問。3世紀後半頃から、エジプトの砂漠地帯で禁欲思想を実践しようとする信徒が現れ、こうした運動はエジプトからシナイ半島や地中海東岸地域を経て、ヨーロッパに伝わったとされる。④：d. ヴォルムス協約は教皇カリクストゥス2世と皇帝ハインリヒ5世との間で結ばれた。⑤：a. ドミニコ修道会はフランスのトゥールーズで創設された。イタリアのアッシジで創設されたのはフランチエスコ修道会である。 | 標準 |
| II | 近代フランス史 | ①：b. マイヤーはエネルギー保存の法則を発表したことで知られる。④：d. ドイツの支援を受けて鎮圧した。⑥：b. フランスによるチュニジア保護国化は第三共和政期の1881年。 | 標準 |
| III | 中国史 (唐～北宋) | イ：楊炎はやや細かい知識である。①：cを正文と判断できれば消去法で解答できる。②：b. 唐代の六部は尚書省の管轄下。宋代には形骸化した時期もあったが、元代に中書省の管轄下に移され、明代には中書省の廃止に伴って六部は皇帝直属となった。⑤：d. 商人の同業者組合は行であり、作は手工業者の同業者組合である。 | 標準 |

代々木ゼミナール

| | | | |
|----|---------------------|--|----|
| IV | イスラーム世界 (マムルーク朝) | ロ：フラグ率いるモンゴル軍はシリアからエジプトへの進出を試みたが、バイバルスがこれを撃退した。⑤：b. イル＝ハン国の君主は、各ウルスを統合する大ハン（クビライ）の権威をおおむね認めていた。⑥：b と d は正文と判断できる。c は受験生には判断が難しいが、有力者が私費でモスクやマドラサを建設して寄進する行為は一般的に行われていた。a. イタリア商人とカーリミー商人との関係を考えれば「地中海とインド洋を結ぶ」のほうが適切であり、a を誤文とみなせる。一方、カーリミー商人はアラビア半島南端部のアデンを中継地として香辛料交易を行ったため、「紅海とインド洋を結ぶ」と書いた a を正文と判断することもできる。したがって、⑥は解なし。 | 標準 |
| V | パレスチナ問題 | ①：d. サダト大統領はアラブ人のイスラーム急進派によって暗殺された。③：b. シオニズムを提唱したのはヘルツル。④：アラブ連盟の原加盟国はエジプト、シリア、イラク、レバノン、トルコ、ヨルダン、イエメン、サウジアラビアの 7か国。d のオマーンが加盟したのは 1971 年。⑥：c. ガザ地区の政権を握ったのはハマース。タリバーンは、2021 年のアメリカ軍撤退後、再びアフガニスタンの政権を握った。 | 標準 |

合格のための学習法

関西学院大の誤文選択問題は、史実として誤っている選択肢の内容が比較的易しく、史実として正しい選択肢の内容は詳細な知識が求められるというものが、例年の傾向として特徴的である。誤文である選択肢を素早く見抜きつつ、消去法でも正答を導けるようにするために、日頃から用語集や資料集を活用して細かな用語や事象にも注意を払って学習する必要がある。出題内容については、どの時代からも概ね満遍なく出題され、分野は政治史が中心であるが、文化史の出題も一定数みられる。今年は近世ヨーロッパや東南アジアに関する大問はなかったが、昨年まで頻出であったため再び扱われる可能性は十分にある。今後も過去問演習を通じてしっかりと対策をしておきたい。